九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Factors at the initial visit associated with poor visual outcomes in patients with acute retinal necrosis

福井, 千博

https://hdl.handle.net/2324/7443286

出版情報：Kyushu University, 2025, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：This version of the article has been accepted for publication, after peer review (when applicable) and is subject to Springer Nature's AM terms of use, but is not the Version of Record and does not reflect post-acceptance improvements, or any corrections. The Version of Record is available online at: https://doi.org/10.1038/s41433-024-03207-w

KYUSHU UNIVERSITY

（別紙様式２）

氏　　名	福井　千博
論　文　名	Factors at the initial visit associated with poor visual outcomes in patients with acute retinal necrosis （急性網膜壊死患者おける視力予後不良と関連する初診時所見の検討）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　磯部　紀子 副　査　　九州大学生体防御医学研究所　　教授　　澤　新一郎 副　査　　九州大学　　教授　　福原　崇介

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

急性網膜壊死(Acute Retinal Necrosis; ARN)は網膜に壊死性病巣が生じ、急激に進行することにより数日で失明に至る極めて視力予後不良な疾患である。その原因はヘルペスウイルスの網膜感染である事が知られているが、標準治療は確立されておらず、希少疾患である事から単施設での視力予後を含めた経過の報告はほぼない。そこで、申請者らは、九州大学病院眼科で入院加療したARN症例の初診時所見から視力予後不良関連因子を検討した。

対象は2015年4月から2021年3月に九州大学病院を受診し、前房水PCR検査および眼底所見からARNと診断した全34症例であり、全症例で抗ウイルス薬およびステロイドの全身投与、28症例は硝子体手術を受けた。視力予後不良の定義は矯正視力0.1以下とし、ロジスティック回帰分析により視力予後不良因子を検討した。既報で視力予後不良因子として報告がある「初診時の視力不良」、「網膜中心部(Zone1)への壊死病変の浸潤」、「網膜剥離の発症」に加え、今回の検討で視力予後不良症例において優位に広範囲である事が示された(p=0.005)「網膜壊死病変の周径」を合わせた4因子を用いて、ロジスティック回帰分析を行なった。結果、網膜壊死病変の周径の拡大が視力予後不良と関連していた（調整オッズ比[95%信頼区間]：1.28[1.00-1.65]、p=0.03）。

結論として、急性網膜壊死において、初診時時点で広範囲な網膜壊死病変を認めた症例では、最終視力予後が不良である事を見出し報告した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。

なお、本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。